日本教育事務学会第 14 回大会

学校事務職員は専門職か、なぜ専門職か、
どう学校事務職員の専門職化を進めるか

第 14 回大会では、会員による多彩な自由研究発表をはじめ、研究推進委員会、研修委員会、国際交流委員会による企画、シンポジウムなど、多様な研究と実践を共有し、議論を深める機会を設けています。

今大会の中心テーマは、「学校事務職員は専門職か、なぜ専門職か、どう学校事務職員の専門職化を進めるか」です。学校事務職員の専門性とは何か。その専門性をどのように育み、専門職としての役割や地位を確立していくのか。研究と実践、学校と教育行政など、それぞれの立場から知見を持ち寄り、学会ならではの多角的な議論を深めたいと考えています。

また、これまで学校事務・教育事務の研究と実践の中で蓄積されてきた知見や課題を次の世代へと継承し、さらに新たな研究や実践へと発展させていくことも、学会の重要な役割です。世代や立場を越えて学び合い、これまでの蓄積を共有するとともに、新たな研究や実践のつながりが生まれる場としたいと考えています。

多くの皆様に御参加いただき、研究と実践をつなぎ、世代をつなぎ、新たなつながりを生み出しながら、学校事務・教育事務の未来をともに考える二日間となることを願っています。

表　大会概要

日時	令和 8 年 12 月 5 日（土）9：00～17：00／12 月 6 日（日）9：00～12：30
会場	対面開催です。 東洋大学白山キャンパス 5 号館　東京都文京区白山 5-28-20 受付は 5 号館 1 階（井上円了記念博物館）です。5 号館へは「正門」からアクセスをお願いします。正門から入りスロープ・階段を上がっていくと、創設者・井上円了像があります。そのまま直進すると、井上円了記念博物館があり、その周辺に受付を設置しています。 キャンパスには入構証をお持ちください（Peatix での参加申込者に PDF で配信します）。入構証がない場合は、入り口の守衛室で学会参加の旨を申し出、記帳してください。 ‣都営地下鉄三田線「白山」駅 A 3 出口より「正門」を経由し 5 号館へ （徒歩約 7 分で到着） ‣東京メトロ南北線「本駒込」駅 1 出口より「正門」を経由し 5 号館へ （徒歩約 10 分で到着） （https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/access/）
定員	150 名以上の皆様の参加を想定しています。 日本教育事務学会は、研究と実践の往還を大切にし、研究者と実践者がともに学び、議論する学会です。初めて参加される方、学会への参加に不慣れな方も、どうぞ安心して御参加ください。また、本大会を新たな研究や実践のつながりが生まれる機会にしたいと考えています。会員の皆様には、ぜひ職場の同僚や研究・実践をともにする方など、まだ会員でない方にもお声がけいただき、一緒に御参加いただければ幸いです。
注意事項	【資料】全てドライブにより配信いたします。紙での配付は行いません。

	【Wi-Fi 利用】大会会場では eduroam がご利用頂けます。 eduroam がご利用できない方向けに、東洋大学の大会限定の Wi-Fi 利用も可能とする予定です。大会限定の Wi-Fi 利用については当日会場にてご案内します。 【昼食・水分補給】土曜日の昼は、6 号館地下のフードコート、3 号館地下の丸亀製麺、8 号館 1 階の SUBWAY が営業予定です。なお、日曜日は、これら学内の食堂は営業しておりません。 会場・正門近くにコンビニエンスストア、また、白山駅周辺に飲食店がございます。キャンパス内では飲料を購入するにはやや歩くことになるため、飲料については予めご準備いただくのがおすすめです。 【会員控室】会員控室として 5103 教室を準備しています。
参加費	会員・非会員：3,000 円　　学生：1,000 円（有職学生を除く）
レセプション	会費：3,000 円
参加申込み	令和 8 年 10 月 20 日（火）～11 月 20 日（金）　Peatix にて受付 https://peatix.com/event/5213861/view?k=6421d384ee3a14976b24bf57c27ddf9a6fdb1057

主催　日本教育事務学会第 14 回大会実行委員会

実行委員長　葛西耕介（東洋大学）
事務局長　　藤原文雄（国立教育政策研究所）
実行委員　　須摩健太（札幌市立八軒中学校）
　　福岡未知留（加賀市立動橋小学校）
大会担当　　福嶋尚子（千葉工業大学）
　　栁澤靖明（川口市立青木中学校）

1 日目　12 月 5 日（土）

9：00～11：30　自由研究発表　― 7 分科会・35 報告 ―

学校事務職員の専門職性・専門性と役割、職能成長、校務運営への参画、教育財政・教育条件整備、子どもの学びや生活を支える教育事務、国内外の教育制度・教育職員政策など、多様なテーマについて研究成果や実践を共有します。第 7 分科会には年報編集委員会主催による「若手部会（若手の部屋）」も設置いたします。本部会は、若手研究者や実践者の皆さまが安心して発表できるよう、建設的かつ温かみのある助言・交流を中心とした部会となります。参加者の皆様につきましては、分科会を途中で移動することも可能です。

第 1 分科会　学校事務職員の専門職性、専門性と役割　　５Ｂ１２教室

司会　木村栞太（九州女子大学）、大﨑政伸（鎌ケ谷市立西部小学校）

・宮澤淳（京都聖母学院中学校・高等学校）：学校事務職員は、誰が変えるのか―私学の事務長としての実践と省察から考える専門職性―
・熊丸真太郎（大分大学）：学校事務職員はいかに語られてきたか―審議会等での議論を題材として―
・餅井京子（熊本県立かもと稲田支援学校／九州大学人間環境学研究院）：「周縁」と「媒介」から捉える学校事務職員の専門性―「なぜ専門職か」への構造的応答と対話型専門知―
・吉村由巳（愛媛県立南宇和高等学校）：高校魅力化における学校事務職員の役割―日常業務から捉え直す事務職員の専門性―

・〇青井拓司（放送大学大学院・院生）、石田早苗（茨城県立取手松陽高等学校）：県立学校事務に関する研究―自治体間比較を通して―

第 2 分科会　学校事務職員の学び・職能成長　５１０２教室

司会　雲尾周（新潟大学）、酒井大輔（藤沢市立大越小学校）

・櫻井直輝（放送大学）：履修証明制度を活用した学校事務職員の職能成長：放送大学「教育事務専門プラン」の取り組み

・湯田拓史（宮崎大学）：NITS コラボを通じた教職大学院と事務研との連携の意義と課題

・宮本健司（白山市立美川中学校）：研究会組織のパブリシティ

・若染雄太（学事出版）：『学校事務』創刊期にみる教育事務をめぐる言説――編集者の視点から

・藤田基成（大崎市立古川第四小学校）：最適な行動を選択する「思い」を重視することの重要性

第 3 分科会　学校事務職員の職務・意識と校務運営参画　５１０４教室

司会　堀井啓幸（常葉大学）、栁澤靖明（川口市立青木中学校）

・福島正行（岩手大学）：学校事務職員の校務運営参画とジョブ・クラフティング

・〇前田雄仁（嵐山町立菅谷小学校）、〇祖父江塁（横浜市立緑小学校）：日々の生活行動と業務意欲行動にかかる相関

・安田浩貴（春日井市立押沢台小学校）：愛知県愛日地区の事務職員の意識から見える共同学校事務室の課題

・嶋田真一（秋田県教育庁中央教育事務所）：学校事務職員における新たな業務支援体制のあり方に関する考察～小・中学校及び義務教育学校における兼任・兼務発令に着目して～

・今井鉄也（岐阜県教育委員会岐阜教育事務所）：共同学校事務室の推進に向けた伴走型支援の実践～岐阜教育事務所におけるアンケート調査と現場訪問を通して～

第 4 分科会　教育財政・教育条件整備と学校事務　５２０９教室

司会　福嶋尚子（千葉工業大学）、井汲智大（川崎市立井田中学校）

・柏木一浩（日本女子大学）：教員の労働時間法制

・土井裕子（名古屋市立守山特別支援学校）：就学援助と特別支援教育就学奨励費の“差”の解消についての検討－政策手法・政策主体の比較から－

・野畑美予（さいたま市立原山中学校）：教職員の出張と旅費の現状と課題―ある政令指定都市公立中学校を例に―

・花井麻理（兵庫教育大学大学院）：公立小中学校における学校徴収金公会計化制度の比較―制度内容とその形成過程に着目して―

・村田淳一（元三重県公立小中学校事務職員）：あなたの県の事務職員定数は　グラフでみる全国ランキング

第 5 分科会　子どもの学び・生活・地域を支える教育事務　５２０８教室

司会　田中謙（日本大学）、須摩健太（札幌市立八軒中学校）

・濵岡功（那須町立那須中央中学校）：不読率の改善に向けた事務部の実践－学びの環境づくりにリアルとデジタルでアプローチ－

・赤松梨江子（四国まなび未来ネットワーク研究所）：コミュニティ・スクールを基盤とする不登校支援の在り方

・千田沙也加（中京大学）：公立中学校における多文化共生の実践―東京都 N 中学校と愛知県 S 中学校のムスリム生徒への対応に着目して―

・高木美枝（赤磐市立磐梨中学校）：災害時学校支援チームへの学校事務職員の参加の意義と課題～学校の早期再開に向けた環境整備に焦点を当てて～

・大天真由美（高梁市立福地小学校）：「子どもたちの幸せを創り出す教育事務」で地域に広がるウェルビーイング～子どものウェルビーイングが地域の大人を幸せにする～

第 6 分科会　教育制度・教育職員の比較と政策　５３０６教室

司会　湯藤定宗（玉川大学）、大熊康之（清水町立清水中学校）

・新井聡（文部科学省総合教育政策局）：「中国の副校長の職務・専門性の多様化について――近年の動向から」

・松本麻人（名古屋大学）：イタリアの学校職員の専門性に関する予備的考察

・藤原文雄（国立教育政策研究所）：シンガポールにおける教師から副校長、校長への移行システム―適任者の確保と選抜に伴う負の影響への対応に着目して―

・名達和俊（北見市立中央小学校（副校長・教頭マネジメント支援員））：教頭マネジメント支援員から見える学校事務職員・学校事務の姿と今後の展望

・佐久間邦友（日本大学文理学部）：公教育における民間教育事業者活用の論理

第 7 分科会　若手部会　５３０９教室

司会　諏訪英広（川崎医療福祉大学）、矢島康宏（鹿児島市立紫原中学校）

・数馬裕美（金沢市立高岡中学校）：事務職員の実践を支える仕組みの構築と検証

・松山美菜（札幌市立札苗北小学校）：校務分掌における学校事務職員の関わりと課題―行事部と発達支援部に所属して見えた世界―

・稗田周太（横芝光町立光中学校）：中堅学校事務職員の主体的な学びを促す層別研修－思考・対話・省察を軸とした研修改善－

・小野直美（岡山県立西備支援学校）：「わからない」を一人で抱えない学校事務～情報共有へ広がる生成 AI 活用

・武井俊輔（館林市立第八小学校）：児童・生徒会費の意義、活用方法について

1 日目　午後のプログラム

11：30～11：40　休憩

11：40～12：10　総会・表彰式　５Ｂ１２教室

12：10～13：00　昼食

13：00～14：00　研究推進委員会企画「韓国に学ぶ学校事務職員の人材育成」

５Ｂ１２教室

学校事務職員の専門性を、キャリアを通じてどのように形成し、組織的に支えるのか。本企画では、韓国の学校で勤務する行政職員の職務、任用、研修、キャリア形成の仕組みを取り上げる。韓国教育・学校事務研究に携わる二人の研究者による報告を通して、日韓の共通点と相違点を捉え、日本における学校事務職員育成指標の全国モデルに必要な視点と制度的条件を考える。

【登壇者】松本麻人（名古屋大学）、權 純炯（韓国教育開発院）

14：00〜15：00　研修委員会企画「大学・大学院における学校事務職員育成の類型」

５Ｂ１２教室

「つかさどる事務職員」への法改正以降、学校事務職員を大学・大学院で育成する動向が多様になってきている。12 月研究大会の研修委員会企画では、この動向と、「大学における学校事務職員の履修証明プログラムモデルの研究を推進する」という活動方針を踏まえた上で、大学・大学院の正規プログラムでの育成以外の動向に目を向けて話題を共有し、議論を深める。事例の比較を通じて、事務職員育成の場としての大学・大学院を検討するための視点を探究したい。

【登壇者】湯田拓史（宮崎大学）「教職大学院と事務研との共同研修企画の事例」／福嶋尚子（千葉工業大学）「放送大学でのオンライン授業の事例」

【コメンテーター】福嶋祐貴（京都教育大学）

【司会】福島正行（岩手大学）

15：00〜15：10　休憩

15：10〜17：00　大会実行委員会企画　５Ｂ１２教室

「学校事務職員は専門職か、なぜ専門職か、どう学校事務職員の専門職化を進めるか」

専門職をめぐる議論の中でこれまで指摘されてきたとおり、専門性を高めることと、専門職化を進めることは同義ではない。専門性の向上とは、一人一人が知識や技能を高めることを意味するのに対し、専門職化とは、専門職としての地位や役割を制度的・社会的に確立していくことを意味する。

本研究大会では、「学校事務職員は専門職か」「なぜ専門職か」「どのように学校事務職員の専門職化を進めるか」という三つの問いを中心テーマとする。そのため、「専門職とは何か」という基本的な概念を整理した上で、学校事務職員の役割や専門性を改めて捉え直し、教育政策や制度の視点から専門職化の方向性について検討する。

【シンポジスト】前田雄仁（全国公立小中学校事務職員研究会 会長）、木村栞太（日本教育事務学会研究推進委員会委員長）、福島正行（日本教育事務学会研修委員会委員長）

【司会】藤原文雄（日本教育事務学会長）

17：00〜18：30　レセプション

研究と実践をつなぎ、世代をつなぐ一つのきっかけとして、レセプションを設けます。名刺交換や参加者同士の交流を通じて、新たな研究や実践のつながりが生まれる場となることを願っています。約 1 時間 30 分の懇親を予定しています。交流を主な目的としたレセプションのため、軽食・飲み物は簡単なもののみの御用意となりますので、あらかじめ御了承ください。終了後は是非お誘いあわせの上、都内の夜をご満喫いただければと思います。

2 日目　12 月 6 日（日）

9：00〜10：30　国際交流委員会企画「カンボジアの教育事務の参照可能性を問う」

５Ｂ１２教室

2026 年度の国際交流委員会は、カンボジアの教育行政および学校関係者との交流に取り組み、同国の学校運営、教育事務の制度や実態について知見を深めてきた。カンボジアでは、1970 年以降に内戦が始まり、ポル・ポト政権期(1975-1979 年)には、多くの知識人が虐殺され、教育制度は断絶した。現在のカンボジアでは、校長と副校長が学校運営のほとんどの実務を担い、公的予算だけではなく、地域住民などからの寄付も重要な財源となっている。また、

学校事務職員は教員から任命される。歴史的背景も制度も異なるカンボジアの教育事務の現場から、日本の学校事務職員は何を参照し、自らの実践や制度をいかに問い直すだろうか。各登壇者の関心から論じる。

【報告者】大熊康之（清水町立清水中学校）、武井俊輔（館林市立第八小学校）、名達和俊（北見市立中央小学校）、栁澤靖明（川口市立青木中学校）

【指定討論者】松本麻人（名古屋大学）

【司会】千田沙也加（中京大学）

10：30〜10：40　休憩

10：40〜12：10　大会実行委員会企画「学校徴収金にかかる政策、研究、実践の最前線」

５Ｂ１２教室

法的側面、運用の煩雑さ、多様な家庭との調整の困難さ、教育活動実施上の必要性の高さなど課題の多い学校徴収金であるが、制度の地域性や学校における慣習性、学校事務職員の属人性により、異動を繰り返すたびに学校徴収金事務の体制を立て直すことも少なくない。本シンポジウムでは、学校徴収金に係る政策・研究・実践の最前線を共有し、学校徴収金事務の高度な水準での平準化を進める理論的基盤を固めることを目的とする。

【登壇者】福嶋尚子（千葉工業大学）「学校徴収金にかかる理念・研究・政策」／指田泰志（全事研調査部長）「令和 7 年 11 月期調査から見る学校徴収金の現状と課題」／栁澤靖明（川口市立青木中学校）「学校徴収金にかかる財務要綱の分析とその活用」

12：10〜12：30　閉会行事　５Ｂ１２教室

閉会行事では、次年度 7 月（予定）に開催する研究集会、11 月（予定）に沖縄で開催する地域研究集会、そして 12 月（予定）に開催する第 15 回大会について御紹介します。第 15 回大会をもって、「学会らしさ」と「世代継承」を掲げて学会運営に取り組んできた現在の執行部は、その役割を終え、次の体制へとバトンをつなぎます。

第 14 回大会で生まれた研究と実践のつながりを次年度の研究集会や地域研究集会へ、そして第 15 回大会へとつなぎ、さらにその先の日本教育事務学会へと継承していく。そのような一年の始まりとなる閉会行事にしたいと考えています。